

翌十六日子は北路を取りて、達坂の南麓<sup>ハ</sup>哈布齊汗<sup>フ</sup>廓爾<sup>コ</sup>に幕營す。哈布齊汗達坂は海拔九千九百尺あり其の頂上迄は緩坂の好路にて降坂即ち東坂は傾斜急ならざるも、哈布察河<sup>ハ</sup>の溪谷を下るが故に兩側は斷崖絶壁を成し、河床を以て道路と爲し礫石狼藉の間を往き、或は右岸に或は左岸に、幾度か溪水を渡渉し騎行容易ならず。河岸は下るに隨ひ、柳樹次第に繁茂せり。地勢斯の如くなるに因りて、降雨若くは融雪の期節等には、河水深くして通過し難し。是に於てか行人は已むを得ず哈爾噶頂達坂の惡路に由る必要を生ず是日の行程約十里半。

十七日、行程約八里の地點に幕宿す。伊犁出發以來、氣温日々朝、二十四、五度日中四十度以上五十二、三度に過ぎざりしが、是日より俄然暑氣を覺え、寒暖計午前は五十度、午後は七十度を示すに至れり。哈布察河谷は漸く開け楊柳及榆樹連綿として叢生し、狹長の森林を成す。道路は緩且つ廣きも依然礫石多し幕營地を距る約一里なる哈布察河の上流は、哈爾噶頂達坂水の合流點にて、該達坂への道路は、其の河岸を走る。

乘馬の逸失

是夜乘馬一頭逸したり。蒙古官子に告げずして唯々周章狼狽翌朝八方に手を